

教育モニター 様

「特別支援学校への進学にかかわる現状」について、ご意見をいただき、ありがとうございました。

平成18年に14校だった公立特別支援学校は、現在22校に、同じ時期に児童生徒数は1,755人から2,578人に増加しています。加えて、教育モニター様ご指摘のとおり、特別支援学校においては、児童生徒の障がいの程度は多様になってきており、そのニーズに対応することが益々求められ、より適切な支援をどうつなげていくかが大きな課題となっております。

これは、社会や学校現場において、特別支援教育に対する理解が進んできた中で見えてきたことであり、特別支援教育の本質に迫るための次の段階に来ているととらえております。

現段階においては、多様なニーズに対応していくために、この3月に「新子どもかがやきプラン」を策定し、4月に岐阜清流特別支援学校を開校しました。また、来年度には、西濃高等特別支援学校の開校を予定しております。

それと同時に、小・中学校において、支援を早い段階から行い、適切な教育支援（かつての就学指導）につなげていくために、個別の教育支援計画の作成や他機関との連携推進等を図るよう、市町村教育委員会を通じて支援を行っております。今後も、市町村教育委員会とより一層連携を図りながら、適切な教育支援が行われるよう努めてまいります。

また、各障がい種に対応した専門的な教育を行う特別支援学校（コアスクール：岐阜盲、岐阜聾、長良、岐阜希望が丘、岐阜清流の5校）において専門性の高い教員を養成し、県内の各校に指導助言を行う等、質に対応できる体制を整える取組も進めております。

まだまだ十分に課題を解決するには至っていないのが現状ですが、今後さらに特別支援学校の教育の在り方について見直し、教員の専門性を高めるための研修を行い、より一人一人のニーズに応じたきめ細かな指導・支援が行われるよう、特別支援学校の教育の充実を図ってまいります。

一人一人の児童生徒のより良い学びのために、これからも努力をしてまいります。今後ともご支援のほどお願い申し上げます。

平成29年10月13日

岐阜県教育委員会

特別支援教育課長 林 雅浩